



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち ～

vol.7

雄大な桜島を望む鹿児島港は、薩摩半島や離島を結ぶ人流・物流の拠点として、またクルーズ船の寄港地としても重要な役割を担っている。こうした中、延長2.4kmの臨港道路(鴨池中央港区線)の整備が進められている。

この日現場で行われていたのは、海上部に設置される延長約1.1kmの橋梁区間の基礎となる橋脚工事。厳しい海象条件に加え、水圧や浸水といったリスクと常に向き合う海上工事では、陸上工事とは異なる特殊な技術と豊富な経験が求められる。

現場を指揮するのは、技術者歴41年の松本篤所長。

印象的だったのは、若手技術者に自ら積極的に声をかけ、丁寧に指導する姿だ。工事のマネジメントに加え、次世代への技術継承も松本所長の大きな使命である。

松本所長が若手に最も伝えたいのは、『技術』以前に『人』と向き合う姿勢だ。「工事を円滑に進めるには、発注者や協力会社、地域の方々など、多くの関係者との信頼関係が欠かせない。日頃から積極的にコミュニケーションを重ね、人として信頼してもらうこと。それが何より大切です。」



撮影/文：西村尚己(2025年11月27日撮影)

工事名：令和6年度鹿児島港(鴨池中央港区)臨港道路橋梁下部工(P1)工事

発注者：国土交通省九州地方整備局

受注者：みらい建設工業株式会社

<プロフィール>

西村尚己 / Naoki Nishimura

株式会社アフロのフォトグラファー(アフロスポーツ所属)。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港線でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。

